

百合便り

校長だより1月号

(雪景色1月22日)



あけましておめでとうございます。本年もよろしく願っています。

私事ですが、年始は駅伝熱からスタートします。子供のころ、叔父の家に行くと、駅伝がずっとテレビで流れていて、「走っているだけなのにおもしろいのかな？」と好きな番組に変えることもできず、やや後ろ向きな気持ちで見っていたのを覚えています。それが、この3年は「青山学院ブーム」に乗じて、見始めたら、これが結構面白い。なんで面白いのか自分なりに考えてみました。

まず一つは、団体種目であるのに、タイムで個人賞を競うことができ、それ故に襷でつなぐ個々のレースを見ている感じになること。10人の選手の駆け引きや、作戦を見ることができるという点。

二つは、それぞれのレース展開が「母校」のためにあり、学校のために走っている。というのがやはり職業柄感動しやすいこと。

三つはコースが複雑でかつ旅行でなじみがあったり、競技性から少し離れて見れること

などを考えました。でも最後はやはり、その懸命さに心打たれたりして、それは自分自身も年をとり、子供の成長を見守るように選手たちを見ているのだと思います。

青山学院の原監督は今では指導者としてもその評価が高いですが、書籍で読んだところ、徹底した「目標管理による指導」だそうなんです。大きな目標に向け、スモールステップの目標を設定させることで、ひとつひとつを自覚させ、確実にこなさせているようです。悩んで相談に来ても、監督が決めることはなく、最後の答えを徹底的に自分たちで見つけさせるそうです。

思えば、私たち教師が生徒に伝える様々なことは、自身の経験の中で整理されてきたことが多く、それは私たち自身のスモールステップを伝えているのかもしれない。そう考えると、それを認知させるという指導は至極当たり前であるけれど、それを認知すべきなのは指導者側なのかもしれないと思いました。いずれにせよ、何事も勉強、原監督の指導法も活用しないとはず。

さて、3年生諸君。君たちもこれから個々のレースをそれぞれの作戦で挑んでください。「挑む」ことこそ、自分を知る最大の機会です。体調管理をし、苦しくなったら、友達と、先生と話してバランス整えてください。応援しています。